

0-1-2

天然の生薬の乳癌に対する抗がん効果について

○永谷 信之¹⁾, 丹羽 耕三¹⁾

1) 土佐清水病院

【目的】

大豆は抗酸化作用, きのこと類は免疫強化作用があることが知られているが, 当院に入院された乳癌患者さんに対して, 大豆やきのこと類を含む当院院長開発の天然の生薬を中心に用いて行った治療に対する効果について検討する事を目的とした。

【方法】

当院に入院された乳癌の患者さんに生薬による治療を行ない長期生存した患者さんおよび治療効果が見られなかった患者さんについて治療前の西洋医学的治療, 腫瘍マーカー, LDH, CD4, CD8, 画像を含めこれらの患者さんの推移を追った。

【結果】

生薬による治療により乳癌の QOL の向上や生命予後の延長に関与できる可能性があると思われた。腫瘍マーカーの推移が安定している場合, 生薬による治療効果によるものと考えられた。生存期間の延長が見られなかった場合は, 西洋医学的治療が最大限行われており, 原疾患の進行, 多臓器転移が見られた。

【結論】

天然の生薬による乳癌治療について検討した。生薬投与により腫瘍マーカーの安定が見られた場合は乳癌の沈静化が見られている可能性があるものと考えられた。この際に画像上で増大していることもあり病態とは一致しない場合がある。免疫療法前に行われた西洋医学的治療とくに抗がん剤による治療後の場合, 転移が各臓器にある場合は, 生薬による免疫系等の回復が困難であり治療効果が得られにくいと思われた。未治療のほうが生薬の効果が見られると思われる。天然の生薬は Phytoestrogen の作用を持つものも多く, これは癌の抑制効果が見られることになっているが, 大量投与より乳癌が急速に腫大したと考えられる症例を経験した。ER α やER β の存在については既知のとおりであるがこれらがどのように関与しているかは今後の課題である。